

1.6.1 加圧方法による引抜き耐力への影響

アンカー体グラウトの加圧方法には、ケーシング方式とパッカー方式があり（図 6.1.1）、その違いを確認するための比較実験を行った。

（試験条件）

- ・定着地盤：強風化安山岩層内（N 値 30）
- ・定着長：2m
- ・テンドン：PC 鋼より線（ $\phi 12.7\text{mm} \times 5$ 本）

その結果、荷重 400kN 時の塑性変位量は、ケーシング方式の 14mm（図 6.1.1）に対して、パッカー方式では 11mm（図 6.1.2）と小さく、後者の方が引抜き耐力に優れている傾向が伺える。

その要因として、以下のように考えられる。

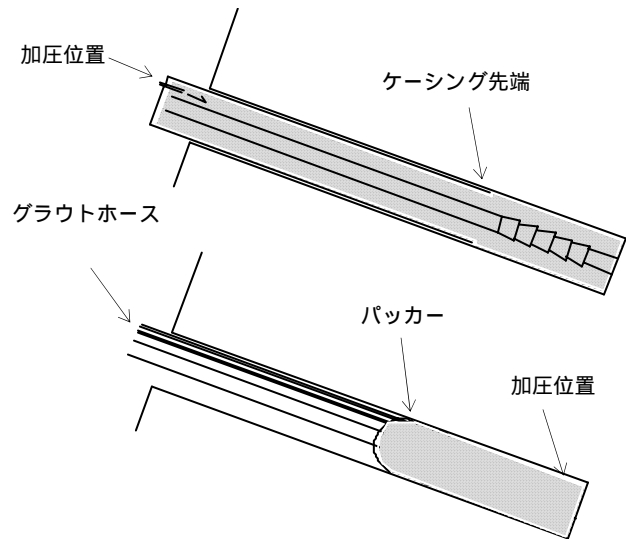


図 6.1.1 アンカー体グラウトの加圧方法

加圧方法	加圧位置の違い	養生期間中の違い
ケーシング	ケーシングを用いて孔口から数十メートル離れた位置に加圧するため、中途での圧力のロスが見込まれる。	不圧状態のため、養生期間中の緩みが懸念される。
パッカー	グラウトホースを用いてアンカー体位置で直接圧入するため、圧力ロスが少ない。	加圧状態のため、安定したグラウトが形成できる。

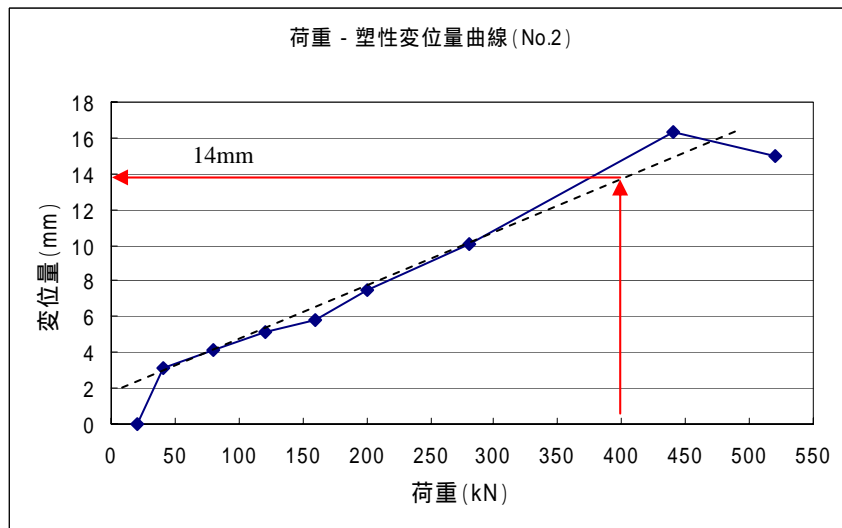


図 6.1.1 ケーシング加圧

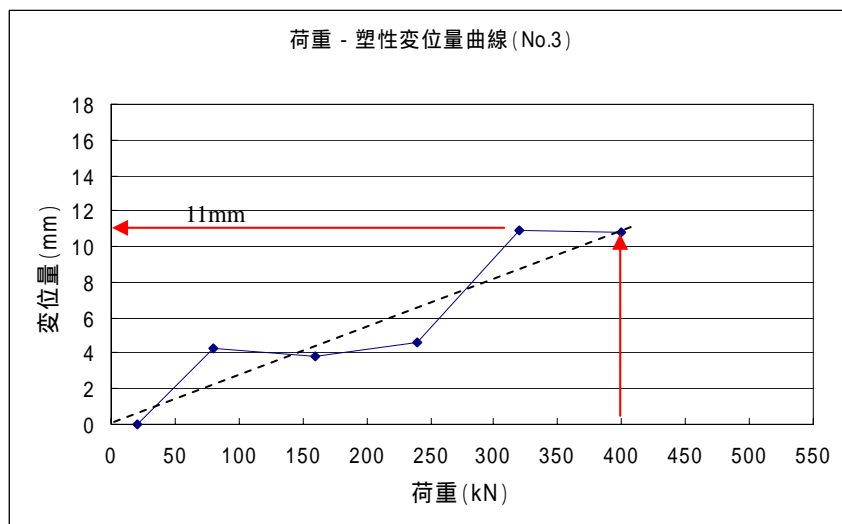


図 6.1.2 パッカー加圧